

暖房器具の火災を防ぐ4+1のポイント

暖房器具について、使い始めや日々の4つの点検ポイント及び使用中の1つの注意ポイントを確認して、事故を未然に防いで安全に冬を過ごしましょう。

電気暖房器具の4つの点検ポイント

- 電源コードや電源プラグが変形・破損していないか、コンセントがたこ足配線になっていないかを確認する。
- 本体に変色や変形等の異常がないかを確認する。
- 転倒時オフ機能（転倒時オフスイッチ等）が正常に作動するか確認する。
- 製品がリコール対象製品ではないか確認する。

石油暖房器具の4つの点検ポイント

- ほこりがたまっているれば取り除く。
- 対震自動消火装置が正しく作動するか確認する。
- 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐ対策を徹底する。
- カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

「+1」暖房器具使用中の注意ポイント

- 暖房器具と壁や可燃物との距離が十分に確保できているかを確認する
(洗濯物は乾かさない)。

電気ストーブ 火災を防ぐ **5**つの点検

✓ リコールしてないか確認

- 消費者庁 リコール情報サイト <https://www.recall.caa.go.jp/>
- NITE 事故情報・リコール検索サイト [SAFE-Lite](#)

✓ 壁や物と距離をとる



プラグ・コードの破損

✓ たこ足配線ではないか確認



✓ 転倒時オフの作動確認



✓ 本体に変形・変色等

異常がないか確認



暖房点検



nite

National Institute of Technology and Evaluation
独立行政法人 製品評価技術基盤機構

引用：独立行政法人 製品評価技術基盤機構

石油ストーブ 火災を防ぐ5つの点検

ふたが“しっかりと 閉まっているか確認



燃料は“新しい灯油”



ほこりを取り除く



壁や物と距離をとる



対震自動消火装置の動作 燃焼筒のすわりを確認



暖房点検



nite

National Institute of Technology and Evaluation
独立行政法人 製品評価技術基盤機構

引用：独立行政法人 製品評価技術基盤機構

住宅防火いのちを守る10のポイント

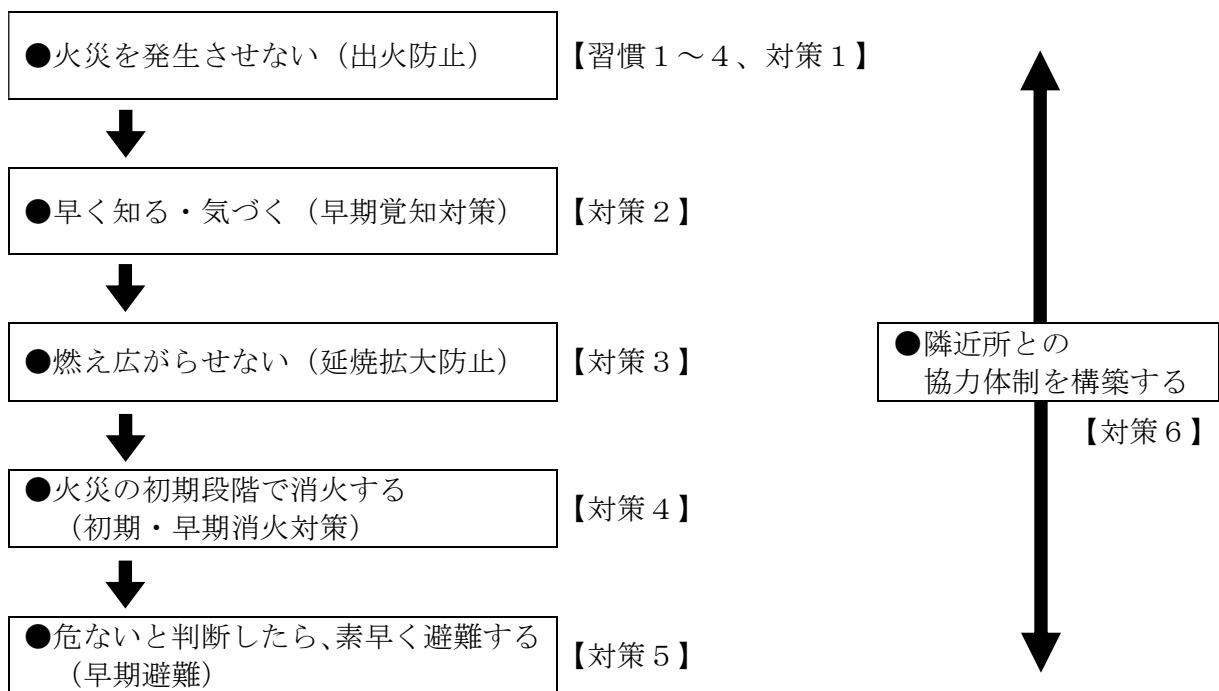
4つの習慣

1. 寝たばこは絶対にしない、させない。
2. ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。
3. こんろを使うときは火のそばを離れない。
4. コンセントはほこりを清掃し、不必要的プラグは抜く。

6つの対策

1. 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
2. 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
3. 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防炎品を使用する。
4. 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
5. お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
6. 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

《住宅防火いのちを守る10のポイントの考え方》



住宅における電気火災を防ごう



大垣消防組合

電気は、私たちの暮らしに不可欠ですが、誤った使い方をすると火災の原因となる危険があります。電気の正しい使い方や火災事例を知って、電気火災を防ぎましょう。

主な電気火災と対策

リチウムイオン蓄電池

リチウムイオン蓄電池とは…

スマートフォンやモバイルバッテリーのように繰り返し使える充電式電池です。

衝撃・加熱・過充電など

- 洗面所などで水に水没させた場合、内部に水が入り、通電時に出火。
- 落下など大きな衝撃が加わり、電池内部の損傷により出火。
- 暖房器具の熱により暖められ、内部に熱がこもり出火。
- 充電器を間違え、許容電圧以上で充電し出火。



【対策】

- 破損や電池が膨らむなどの異常がある場合は使用しないようにしましょう。
- 熱くなる場所に放置しないようにしましょう。
- 充電器は電気製品に付属しているものであるか確認しましょう。
- PSEマークが表示されている製品か確認しましょう。



電源コード・プラグ

たこ足配線（過電流）

たこ足配線により、電気製品を接続し使用したため、定格容量以上の電流が流れ、発熱し出火。

例) ドライヤー(1200W)と電気ストーブ(800W)を同時に使用した場合
2000W > 1500W (定格容量以上)

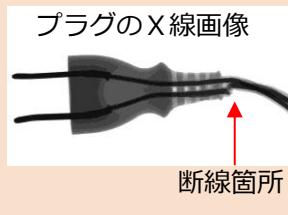


【対策】

テーブルタップ（延長コード）やコンセントは、定格容量（一般的には15A・1500W）が決まっています。電気製品の消費電力やテーブルタップの許容電流を確認して、定格容量内で使用しましょう。

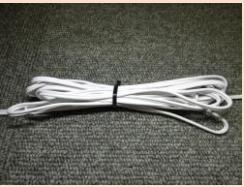
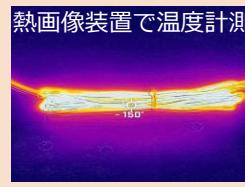
踏みつけ・折れ・ひっぱり（半断線）

- 電源コードの上に本棚などの重い家具が載っていたため、部分的に断線し出火。
- コンセントから電源コードの引っ張り抜きを繰り返し、断線し出火。



【対策】

- 電源コードに重いものが踏まれていないか、挟まれていないか確認しましょう。
- 電源コードは引っ張らないで、プラグ部分を持ってコンセントから抜きましょう。

【対策】	【原因】
電源コードは束ねず、伸ばして使用しましょう。	電源コードを束ねたまま使用したため、電源コードの熱がこもり出火。
	
【対策】	【原因】
・プラグは乾いた布などで定期的に清掃をしましょう。（テレビ台の裏などのプラグは一度差すと、差したままなので忘れずに！） ・使用していないプラグはコンセントから抜きましょう。（電気製品を使用していなくてもトラッキング現象は起きます。） ・水槽などの水がかかつたり、湿気がついたらしないようにしましょう。	プラグにホコリや湿気がたまつた状態で放置し出火。
	
トラッキング現象とは… 長期間、プラグを差し込んだままでいると、そこにはホコリや湿気などが付着し、小さな火花放電が繰り返され、プラグやコンセントのプラスチック部分（絶縁物）が炭化し、そこに電気の通り道（トラック）ができるで大電流が流れ出火する恐れがあります。	
【対策】	【原因】
・プラグはしっかりコンセントに差し込みましょう。 ・プラグを差し込んで、ぐらつくコンセントは使用しないで、電気専門業者に見てもらいましょう。	プラグが完全に差し込まれていない状態で使用し、電気抵抗が増えて出火。
	
【対策】	【原因】
配線が古くなったり、傷ついたり、劣化して固くなっている場合は、新しいものに交換しましょう。	配線の劣化により、配線の両極（+と-）が電気的に結ばれて（ショート）出火。
配線の劣化とは… 熱劣化（過電流などで配線の許容温度以上の高温状態が続き劣化）、外部からの影響（折れ、傷など）、経年劣化（長年の使用で劣化）	

電子レンジ

【対策】	【原因】
・取扱い説明書やレトルト食品に記載がある注意事項を確認し、長時間の加熱に気を付けましょう。 ・温めるものに金属製のものがないか確認しましょう。 ・こまめな清掃を行いましょう。	・電子レンジで加熱できないレトルト食品のアルミ製の袋ごと入れて出火。 ・さつまいもを加熱した際、加熱時間が長すぎたため出火。 ・電子レンジ内の清掃不足により油汚れで出火。
	